

PRAEVIDENTIA DAILY (4月18日)

昨日までの世界：良好な米経済指標と休暇前のポジション調整でドル堅調

昨日は、米経済指標が市場予想を上回り、米中長期債利回りが大幅に上昇したことから、ドルが対主要通貨で概ね全面高の展開となった。ウクライナ情勢に関して、米露、ウクライナ、EUの4者会談で沈静化に取り組むことで合意したことも、更なる緊迫化懸念を後退させ、米長期債利回りの持ち直しに繋がったとみられる。とは言え、材料としては米利回りの上昇幅は大きく、本日からの欧米の復活祭休日の前のポジション調整という側面もあったとみられる。

ドル/円は、東京時間朝方は前日の上昇分をほぼ帳消しにするかたちで一時101円台後半へ軟化する局面もみられたが、その後徐々に反発、NY時間に発表された米経済指標で、新規失業保険申請件数が30.4万件と市場予想ほど増加せず前週並みの低水準を維持したほか、フィラデルフィア連銀製造業サーベイも16.6と前月および市場予想を大きく上回ったことから、米長期債利回りが10bps程度上昇、ドル/円は前日高値を上回り一時102.47円へ上昇した。とはいえ、依然として2月以降の102円を挟んだ横ばい圏内の動きを脱していない。

その他、対米ドルで下落が大きかったのはNZドルと豪ドルで、NZドルは前日の市場予想を下回るCPI発表後の安値を下回り、一時0.8562ドルへ下落した。他方、カナダドルは、カナダ3月CPIが発表され、コアCPI前年比は+1.3%で市場予想通りだったものの、総合CPIが前年比+1.5%と、前月の+1.1%、市場予想の+1.4%を上回ったことから買い戻される局面がみられたことから、対米ドルで下落しなかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.03	+0.03	+0.00	+0.10	+0.09	-0.01	+0.8	-0.0	+0.5	+0.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.0	+0.01	+0.04	+0.03	-0.06	+0.03	+0.09	+0.5	+0.8	+0.0	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.0	+0.02	+0.04	+0.03	-0.06	+0.03	+0.09	+0.6	+0.8		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.4	-0.04	-0.02	+0.03	-0.11	-0.02	+0.09	+0.8	-0.3	+0.6	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.6	-0.02	+0.01	+0.03	-0.12	-0.03	+0.09	+0.8	-0.3	+0.6	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.1	+0.00	+0.03	+0.03	+0.04	+0.09	+0.05	+0.8	+0.5	+0.6	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：南太平洋の利上げと通貨高牽制のせめぎ合い

きょうの注目通貨：なし

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
なし				

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は欧米、香港、豪州など殆どの地域が祝日であるため、市場参加者は少なく動意に乏しいだろう。

来週の注目通貨：AUD↑、NZD↑、EUR↓、USD/JPY↓

来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<21日>				
本邦3月通関貿易収支・季節調整前・円	8:50	-8025億	-1兆660億	
<23日>				
豪1Q総合CPI・前年比	10:30	+2.7%	+3.2%	
同・刈込平均・前年比		+2.6%	+2.9%	
同・加重中央値・前年比		+2.6%	+2.9%	
ドイツ4月PMI製造業	16:30	53.7	53.8	
ユーロ圏4月PMI製造業	17:00	53.0	53.0	
南ア3月総合CPI・前年比	17:00	+5.9%	+5.9%	インフレ目標上限は6%
<24日>				
RBNZ金融政策決定	6:00	2.75%	3.00%	
独Ifo景況感指数	17:00	110.7	110.4	
米3月耐久財受注・除く輸送・前月比	21:30	+0.1%	+0.5%	
<25日>				
本邦3月全国コアCPI・前年比	8:30	+1.3%	+1.4%	
本邦4月東京コアCPI・前年比	8:30	+1.0%	+2.9%	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

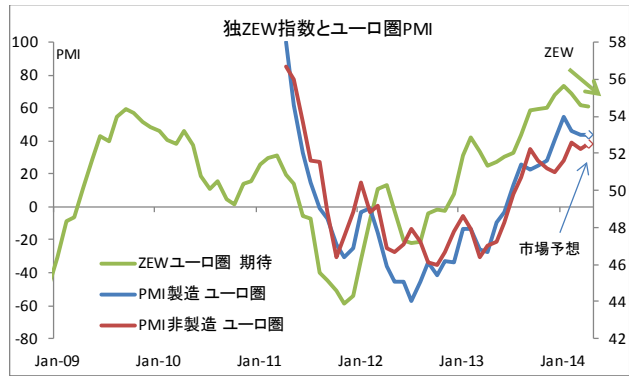
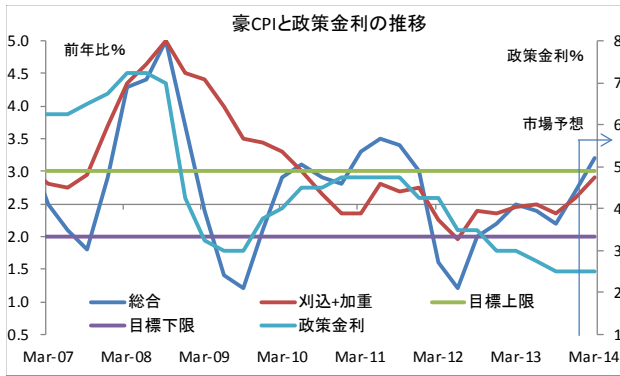
来週は、豪1QCPI(23日)、ユーロ圏4月PMI(23日)、RBNZ金融政策決定(24日早朝)、本邦4月コアCPI(東京分、25日)などが注目だ。米国では中古・新築住宅販売や耐久財受注などが発表されるが、この結果でドルの方向性が大きく左右されるとは考え難い。ドル/円は2月以降の102円を中心とした横ばい圏内の動きが続くとみられる。

豪CPIは総合CPIが前年比+3.2%とRBAのインフレ目標レンジ(2-3%)を上抜けする見込みで、コアインフレ(刈り込み平均と加重中央値の平均)も+2.9%とレンジ上限ぎりぎりとなる。インフレ上昇が確認されると、これまでの良好な豪経済指標と合わせ、市場の年内の利上げ開始期待を強め豪ドル高バイアスがある。但し、既に高いCPIが予想されていることから、予想程度に留まると発表後の利食い・反落リスクもあり、注意が必要だ。当社は、RBAが成長促進のため豪ドル安誘導したいと考えていることから、足許の豪ドル持ち直しを踏まえると、更なる豪ドル高に繋がる早期利上げはないとみている。

ユーロ圏では4月PMIが注目される。ユーロ圏景気回復を主導してきたドイツの景況感指数はピークアウト感が強まっており、特に先行きの見通しを示すZEW期待指数(ユーロ圏分)では3か月連続悪化しているにも拘らず、今回のPMIではドイツ分で小幅改善、ユーロ圏は横ばいが予想されており、予想比下振れリスクが高く、ユーロ安に繋がるだろう。

RBNZについては前回3月に続いて25bpsの利上げがコンセンサスとなっており、これまでのNZドル堅調に繋がっていた。今後の利上げ継続の必要性を繰り返すとみられNZドル下支え要因だが、同時にNZドル高懸念を強めるリスクがあるため、発表後のNZドル反落に注意が必要だ。

本邦ではCPIが注目される。通常のCPI発表では全国コアCPIが注目されるが、今回は消費増税後のインフレの程度をみるため、4月分東京コアCPIが前月の前年比+1.0%から、増税分以上の伸びになるかどうか注目される。消費増税による押し上げは、非課税品目の存在や4月の経過措置適用などにより105%から108%への上昇率(2.86%)よりも小さくなり+1.7%ポイント程度と試算されている。すなわち、+1.0%に+1.7%ポイントを足した+2.7%ポイント以上の伸びになる場合、便乗値上げが大きく、需要低下による価格低下が小さいことを意味し、来年の2%インフレ目標達成が危ぶまれている日銀には援軍で、追加緩和の必要性を後退させ、円高要因だ。逆に+2.7%に届かない場合、消費増税後の需要の落ち込みが想起され、追加緩和の必要性に関する議論を高め、円安要因となる。現時点の市場予想は+2.9%であることから、ドル/円はレンジ内ながら下押し要因となるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641